

環境福祉部会 視察報告 加藤昭孝

日 時 平成 25 年 11 月 6 日（水）～8 日（金）

視察先 奈良県生駒市 岡山県総社市 岡山県岡山市

目 的 環境福祉担当分野における諸問題の解決策の一つとして、ゴミ問題、障がい者雇用の問題、今年条例制定が予定されている「歯と口腔の健康づくり推進条例」の先進事例を調査し、豊田市政に反映する。

11 月 6 日（水） 14:00－15:30 生駒市議会「ごみ半減プランの取組」

地 勢 奈良県の北西部に位置し、生駒山地の主峰生駒山を擁する住宅都市。大阪府、京都府に接する。緑豊かな環境と大阪都心部へ約 20 分の好条件から、大阪圏のベッドタウンとして人口が増加。北部の高山町では、室町時代からの歴史を持つ茶筌や竹製品の製造が盛んである。関西文化学術研究都市の一端を担い、奈良先端科学技術大学院大学、高山サイエンスプラザのほか、民間の研究所などが立地する。名前の由来は、3000 年前に朝鮮半島方面からの移民民族が、生駒山を眺めては、故国語で「こま」と呼び、接頭語の「い」を付けて「いこま」となった。

内 容 生駒市のごみの現状について、ごみの

発生総量は H22 年度よりも 1% の微減、**39,481 t** であり、資源化率は **19.5%** にとどまっている。ごみ処理に対する年間経費は、事務経費や施設維持費などで H24 年度は 15 億円余りとなっている。こうした状況の中で、一般廃棄物処理基本計画（H23 年度～H32 年度の 10 年計画）に基づいて、燃やすごみを H21 年度比半減を目標に掲げた。「ごみ半減



プラン」の基本理念は、ずてることをやめて、循環型社会の構築を目指すもので、基本方針は①ごみ減量・資源化に対する理解を深め、実践行動を共に起こす②家庭系ごみの減量・資源化の推進③事業系ごみの減量・資源化の推進④ごみ半減の実現に向けた処理システムの構築を掲げている。重点施策として、①もったいない運動の展開による発生抑制の推進②プラスチック製容器包装分別収集の実施③家庭系ごみ中の資源化可能な紙類削減の取組の推進④家庭系ごみへの有料制導入⑤バイオマス（生ゴミ・剪定枝等）の資源化⑥事業系ごみ有料指定袋制の導入⑦事業系ごみの減量・資源化促進のための取組拡充（実施済み①②③⑥）を挙げているが、④については平成 23 年 4 月から検討委員会を立ち上げ、平成 24 年 3 月まで協議されてきたが、市民の努力によりごみ半減が達成できれば、有料化しなくてもよいのではないか、という「ごみ半減トライアル計画」がなされた。現在の成果を検証中である。その他、実施済みの施策においては「リユース市」などを行い、ごみ半減に臨んでいる。身近なごみ問題としては、カラス被害、不法投棄、ゴミ置き場、持ち去り、プラスチック製容器包装層の分別などがあげられている。

まとめ 「ごみ半減プラン」自体は、いいことである。ただし、その目標に対して、本当に実現可能かどうか、といえは疑問が残る。「笛吹けど踊らず」では意味がない。ま

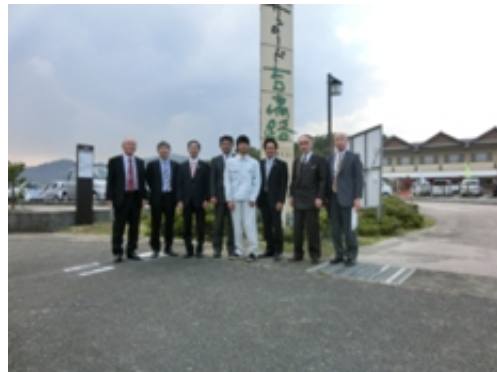
た、ゴミの資源化も豊田市でも取り組んでいるが、ごみを循環させて、製品にし、更なる循環型社会を目指さなければならないが、需要と供給の関係を構築し、資本社会の流れにうまく乗せられなければ、負担は市民に強いられる。ごみ問題は、いかに資本主義社会の中に溶け込ませることができるかで、解決が図られていくと考える。



11月7日(木) 13:30-15:00 総社市議会 「障がい者千人雇用推進条例」

地 勢 岡山県の南部に位置し、温暖な気候と豊かな自然に恵まれる。古代山城の鬼ノ城や作山古墳など、古代吉備王国の中心としての繁栄を物語る文化遺産が多く残る。高速道路や鉄道、岡山空港も近いことから中四国の交通結節点として、広域交通の拠点性が高い。名前の由来は、備中の 324 社を合祀した総社宮の門前町として発展したことから。

内 容 まずは、現地調査から行った。「国民宿舎サンロード吉備路」「サンガーデン吉備路」「作山古墳圃場(やさい畑クムレ)」「ニコニコ堂」を経て総社市役所にて「障害者千人雇用推進条例」について調査研究を行った。「国民宿舎サンロード吉備路」には、平成 24 年 4 月障がい者千人雇用センターを



開所。同年 9 月より 1 名採用。業務内容は、環境整備及び施設管理補助。雇用に当たって、①従業員に対しては、仲間意識と職場の理解②事業所として、従業員へのサポート③経済的なバックアップ④仕事のレベルアップ⑤安定的な経営基盤を保つ。課題としては、雇用に当たって交通手段の確保があげられるが、「雪舟くん(市民乗合タクシー)」の運行が、今回のケースでは役立った。今後の課題は、就業時間の延長と 2 人目の採用、があげられていた。次に、「サンガーデン吉備路」「作山古墳圃場」であるが、サンガーデンはガソリンスタンドで給油から洗車まで行う施設。圃場、やさい畑クムレでは、地・食べ公社の請負地での畑作と全量買取制度を活用している。農業分野における取組の拡大を図るためのモデル的事業所。「ニコニコ堂」は、ラスクやおはぎ等の製造販売をしている。現地視察後、総社市役所内にて説明を受ける。障がい者雇用千人に向けての考え方は、目標年次(時期)を平成 23 年度から平成 27 年度末までとし、地理的範囲を総社市内において一般就労、福祉的就労をしている障がい者に加え、市外において就労している障がい者を含める。また、



就労範囲を一般就労に加え、就労継続支援事業所や地域活動支援センター等における福祉的就労を含める、としている。総社市の障がい者は約 **3200** 人、そのうち **18** 歳から **65** 歳が約 **1200** 人いるといわれる。そうした中で、「雇用 **1,000** 人」達成を目指す。現在までの就労者数は、平成 **25** 年 **10** 月までで **660** 人を達成している。経緯は、平成 **23** 年 **5** 月に「総社市障がい者千人雇用委員会」を設置し、

議論が始まる。同年 **7** 月ハローワークとの協働にて「就労支援ルーム」を開設。中間報告を経て同年 **12** 月に「総社市障がい者千人雇用推進条例」を制定、平成 **24** 年 **1** 月障がい者ワークわく「そうじゃ就職面接会」を開催し **9** 人の就職が決定。同年 **4** 月「総社市障がい者千人雇用センター」を設置している。福祉的就労促進に向けては、現地視察した「サンガーデン吉備路」ガソリンスタンド (**H23.10**～)、「のぞみ」ニコニコ堂 (**H24.5**～)、「やさい畑クムレ」 (**H25.11**～) などが開設されている。まとめ 障がい者雇用への意欲は「**1000** 人を目指す」というところによく表れている。

現在のところ **660** 人を雇用できているようだが、平成 **27** 年度までに達成するかどうかは別にして、そうした活動をする中で、障がい者本人や関係者、そして、何より地域やそこに住む人たちが活性化されていくのではないかと感ずる。自治体は、その事業を成功させることだけを目指すだけでなく、その事業を通して地域の活性化となるような方策を考えていかなければならない、と感じる。



11月8日(金) 10:00 - 11:30 岡山市議会「岡山市歯と口腔の健康づくり推進条例」

地 勢 温暖な気候と多様な自然環境に恵まれる中国地方の第 **2** の都市。水資源に恵まれた岡山平野に位置する。江戸期には池田藩城下町として繁栄した。'09年 **4** 月に政令指定都市に移行。広島高速交通の結節点という地の利、恵まれた自然や住環境、福祉・医療・教育分野での蓄積などを活かしたまちづくりが進展した。名前の由来は、吉備の穴海にあった離島が陸続きになり形成された **3** つの丘の一つ「岡山」に宇喜多秀家が築城したことに由来する。

内 容 条例制定の経緯は、平成 **23** 年度保健福祉委員会から意見があり、その後、勉強会を開催、岡山歯科医師会からの条例制定に対する考え方などの説明を受ける。平成 **24** 年度 **7** 月から **8** 月にかけてパブリックコメントを行い、平成 **25** 年 **4** 月条例施行に至る。条例は全 **13** 条からなる。目的、基本理念、責務と役割(市・市民・保健、医療、福祉、教育等関係者・歯科医療従事者、事業主)、歯科保健基本計画、基本施策の実施、推進協議会の設置及び組織が定められている。歯科保健基本計画の特徴は、計画期間を平成 **26** 年度から平成 **34** 年度までの **9** 年間とし、中間評価を平



成 29 年度に行うとしている。特に保健・医療等の関連施設を有機的に連携し、取り組みを推進する、としている。具体的には、歯科医師会連合会、歯科医師会、歯科衛生士会などと、歯周疾患健診の事業委託、休日急患歯科診療所への場所提供、関連イベントへの協力などがあげられる。事業主との連携及び取組として、商工会を通してアンケートへの協力などがあげられる。条例制定の効果として、①庁内

関係者に留まらず、協議会の設立により、庁外関係者と意見交換をしたり、アンケート調査など連携が深まっている。②障がい者や要介護者などへの取組や事業主の役割など、これまで手薄だった部分の検証や今後の対策など、総合的かつ体系的に議論を深め、計画策定に活かされている。今後の課題は、①口腔機能の健全な育成、機能の維持、向上に向けた取り組みの推進②障がい者、要介護者の口腔の健康保持、増進への取組③医科歯科連携の取組の推進④フッ素洗口を実施する保育所、幼稚園及び小学校の増加への取組、があげられる。

まとめ 条例制定は、ややもすると「条例制定が目的」となりやすいため、岡山市のように「基本計画策定」は必須であると考えるが、豊田市においては、基本計画は考えていないようである。また、今後の課題としては、歯科医師会と医師会との連携があげられており、双方の意見などをよく聞かなければ、今後の施策の進み方や進め方にも影響すると思われる。その点については、行政や議会が間に入って、施策の推進に寄与しなければならないだろう。目的は市民の健康であるから、全体をよく見極めて進めなければならない。

